

＊江戸東京博物館は大規模改修工事のため2025年度中(予定)まで休館しております。



押絵画帖 まつだせっか 松田雪華 江戸末期～明治前期 資料番号 23200077

令和5年度 新収蔵品の紹介

① 押絵の名工
松田雪華が伝える
江戸の生業なりわい

扇子店の店先に腰かける女性客に、商品を案内する店の男女。その傍らで、扇の骨組みに絵入りの扇面を貼る職人。

背景から浮かび上がるように生き生きと表現された人物たちは、押絵——中に綿を入れて膨らみを持たせた布を貼りつける——の技法で、厚みをもって表現されています。

簡略化された彩色画の背景に比して、押絵の部分は衣服や装身具、顔の表情や髪が生え際に至るまで精巧な描き込みが確認できます。

作者の松田雪華は、幕末から明治にかけて活動した押絵の名工。本作は、江戸時代の風俗や生業の様相を題材とした12枚の画面を綴った画帖です。失われた江戸の営みのみならず、押絵がかつては多彩な作品を生んだ人気のジャンルであったことを、本作は今日に伝えていきます。

(学芸員 春木晶子)

CONTENTS

- ・国際交流事業報告 アフターコロナの国際会議
- ・研究の散歩道 博物館におけるユニバーサル
- ・スマートフォンアプリ第3弾「ハイパー江戸博 日本橋繫昌記 江戸のお金編」をリリース!

令和
5年度

新収蔵品の紹介

令和5年度も多くの博物館資料を収集することができました。その一部をここに紹介いたします。

※表紙もご覧ください。

令和5年度

国際交流 事業報告

アフターコロナの 国際会議

当館では2023年（令和5）
度、二つの国際的会議に参加
しました。

一つ目が、ニューヨーク市立
博物館で行われたICOM（国
際博物館会議）内の国際委員
会のひとつつCAMOC（都市博物
館のコレクション・活動国際委
員会）の年次会議です。

もう一つが、瀋陽故宮博物院
で行われた日中韓博物館国際シ
ンポジウムです。

私は、この二つの会議に参加
する機会を得ました。それぞれ
の博物館が担う地域課題や使命
などはさまざまですが、文化伝
承・保護への熱い想いや現代、そ
して未来へと続く地域社会の課
題への取り組みなどについて、
今回は参加者と直に対話するこ

② 北斎晩年の弟子 府川一則の画帖

府川一則（初代 1824～1876）は、戯作者
五返舎半九の長男で、12歳の時葛飾北斎に入門しました。
北嶺（または北岑）と号し絵師の活動をしていましたが、北
斎の没後は刀装具の下絵を頼まれていた縁で金工の道に転
じました。一則の号は、北斎の別号「為一」と師匠筋にあたる
名工遅塚久則の名から一字を取ったものです。

この画帖は、一則門流の一人、府川一信（1891～
1979）が所持していたものです。一信の父は信州諏訪の宮
彫師宮坂家の出身で一則に入門、その子一信も二代・三代一則
に師事して昭和期まで彫金界で活躍しました。一信は、一則が
夜仕事を終えた弟子たちに絵を描き与えるのを楽しみにし
ていたという話を父から聞いています。一則の画からは、師北
斎を彷彿とさせる筆致がうかがえます。（学芸員 落合則子）



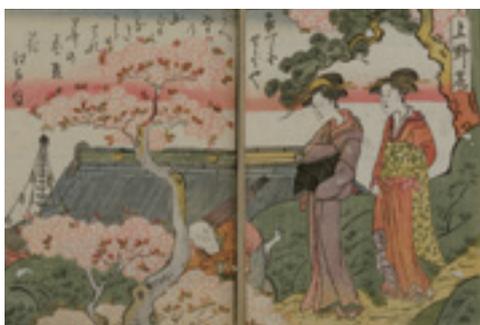
ざつえがちよ
雑絵画帖
府川一則（初代）／画
明治初期
資料番号 23000639

③ 現存数の少ない美しき狂歌絵本

桜と紅葉の名所を取り上げ、訪れる女性たちの絵と狂
歌とで構成した色摺りの絵本です。絵は歌川派の中興の
祖である初代歌川豊国（1769～1825）が手がけ、
狂歌は大田南畝没後に名跡を継ぐ鹿都部真顔（1753～
1829）が率いた数寄屋連によります。

狂歌とは滑稽や機知を趣旨とする短歌です。天明期
（1781～89）に社会的ブームとなり、愛好者たちが身分
を超えて歌を詠みあつたほか、歌に絵を添えた作品集を出す
ことも好まれました。狂歌師たちと交流の深かった葛屋重三
郎が出版した狂歌絵本
がよく知られますが、本
資料は芝神明に店を構
えた和泉屋市兵衛が出
しています。絵師として
駆け出しであった頃の
豊国を支えた人物です。
寛政期の江戸出版界
を知る上でも重要な稀
本です。

（学芸員 丹藤真子）



えほんくくりぞめ
絵本額額染 歌川豊国（初代）／画
1794年（寛政6） 資料番号 23200001～23200002

博物館におけるユニバーサル

学芸員

津田紘子・文

近年「ユニバーサル」や「インクルーシブ」という言葉をよく耳にするようになったが、当館でも、「あらゆる人」の「知りたい」というニーズにできる限り応えられるように様々な取り組みを行っている。

博物館に展示される資料は、劣化や破損を防ぐため触れないことが多いが、複製や模型など「触れる資料」を活用することで、障害の有無にかかわらず様々な人が楽しめる場をつくることができる。現在、館外で実施している「えどはく移動博物館」では、浮世絵の版木の複製や、歌舞伎の効果音に使われる鳴り物、黒電話などを手にとってもらいながら紹介している。

障害のある当事者へのワークショップでは、運営者の立場から実に多くの気づきがある。視覚障害の方からよく「素材は何か」という質問を受ける。当事者の立場に立って、改めて物に触れて、手の感覚を使いながらじっくり資料を観察すると、普段、自分が視覚から多くの情報を得ていることで、うっかり見落とししている細部の情報に気づかされる。

また、聴覚障害の方が、黒電話の呼び鈴の音を、手から伝わる振動で確かめるのを見て、触覚から得られる情報の多様性を知ることができた。

このような体験から、「障害」に対して「できる／できない」という区別や、「興味のある／なし」を一方向的に押し付けてしまうことなく、知る「手段」や、興味を持つポイントの違いなど、個々人の感覚の「違い」を理解し尊重しながら、博物館におけるユニバーサルを考えていくことの必要性を強く意識することができた。こうした姿勢は障害の有無だけでなく、言語や文化、世代の違いなどあらゆる関係性においても通ずるものである。

すでに多くの博物館で、字幕や通訳、触れるツールの活用やボランティアなど、障害の特性に応じて必要な支援を講じながら、誰もが参加できるプログラムを開催している。

このように、あらゆる人が博物館という場を共有しながら、自分に合った楽しみ方への選択肢が広がるように、今後も様々な人との交流をおし、支援の在り方やツールの開発、プログラムの充実を図っていきたい。

とができました。Webではなく対面での交流を継続する意義を再認識しました。

(学芸員 高橋英久)

上：相撲絵の版木(複製)と「触れる浮世絵」活用の様子
下：指先で触れてわかるよう図柄に凹凸を付けた「触れる浮世絵」(部分)



2023年日中韓博物館国際シンポジウム 瀋陽故宮博物院見学の様子
国際会議にも日常が戻ってきました。



2023CAMOC 年次会議の様子



図書室から
お知らせ

年報・紀要を読もう

美術館や博物館の活動報告書をご覧になったことはありますか？図書室では、主に江戸や東京に関する資料を収集していますが、全国の美術館や博物館が発行する年報や紀要も2,000タイトル以上所蔵しています。年報にはその年に開催された展覧会の概要や入館者数、館の取組みなどがまとめられています。紀要では職員等が研究成果を発表していま

す。各地の美術館・博物館がどのような活動を行っているかぜひ一度ご覧になってみてください。

大規模改修工事もいよいよ大詰め。リニューアル準備室での図書資料閲覧サービスは12月中をもって終了の予定です。ご利用の方はお早めにご予約をお願いします。



江戸東京博物館の紀要

スマートフォンアプリ

第3弾「ハイパー江戸博 日本橋繫昌記 江戸のお金編」をリリース！

シリーズ累計19万ダウンロードを突破したハイパー江戸博の第3弾「日本橋繫昌記 江戸のお金編」が4月22日にリリースされました。本作の舞台は江戸日本橋。芝居小屋・魚河岸・三井越後屋といった、一日に千両も稼ぐと言われた場所が3箇所もあった江戸の中心地です。本作では従来の収蔵品をあつめる要素に加えて、日本橋エリアで働き収入を得て、モノを買いお金を支払うといった新要素が加わりました。当時の資料をもとに3DCGで再現した日本橋の街並みを駆け巡りながら、江戸時代のお金事情を是非楽しく学んでみてください。



アプリのダウンロードは
こちらから



伝統芸能公演

「観る・学ぶ・楽しむえどはくスペシャル公演」と題して伝統芸能公演を年4回都内ホールにて開催します。

第1弾 「日本舞踊とクラシックとの出会い」

- 2024年7月20日(土) ①14:00～
- 2024年7月21日(日) ①11:00～(お子さま向けレクチャーコーナーあり)
②15:00～

会場：墨田区曳舟文化センター 入場料：無料 ※事前予約制

第2弾 「はじめての三曲と体験教室」

- 2024年8月12日(月・休)
- ・体験教室(箏・尺八) ①13:00～ ②13:30～
- ・公演「はじめての三曲」 15:00～

会場：江東区亀戸文化センター
入場料：無料 ※事前予約制

公演の詳細は当館HPにてお知らせします



はじめての三曲(2023年度公演)

展覧会のお知らせ

■近代版画の東京展(仮称)

会期：2024年11月6日(水)～2025年2月1日(土)
会場：パリ日本文化会館

2022年度に続き、パリにて江戸東京博物館の収蔵品展の第2弾を開催します。これまでパリで大きく紹介されてこなかった新版画などの日本近代版画により、1920～40年代の東京の近代化を紹介。パリの秋の展覧会シーズンに江戸博コレクションの名品を世界に発信します。

※最新の情報は当館のHPにてお知らせします。



日本橋(夜明) 川瀬巴水
1940年(昭和15)
資料番号 92200814

■「北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦 江戸東京博物館コレクションより」

大分県立美術館(2024年7月26日(金)～9月8日(日))

■館外展示「出張！江戸東京博物館」

会期：2025年2月22日(土)～2月26日(水)
会場：東京都美術館

2025年も江戸東京博物館が上野に出張します。本展では、常設展示でおなじみの「千両箱」や「人力車」などの体験模型を中心に、その関連資料を展示します。また特集展示として、時代とともに変化する上野の風景について、錦絵や絵葉書などから紹介します。多彩な江戸博コレクションをご覧いただき、江戸東京の歴史と文化を体感していただけますと幸いです。

■巡回展「どうぶつ百景ー江戸東京博物館コレクションより」

山梨県立博物館(2024年7月13日(土)～9月2日(月))

■巡回展「Quizknockと巡る江戸東京博物館展」

岡崎市美術博物館(2024年7月13日(土)～9月23日(月・休))
静岡市歴史博物館(2024年10月5日(土)～12月15日(日))



休館情報

当館は2022年(令和4)4月1日から2025年(令和7)度(予定)まで大規模改修工事のため休館中です。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施しています。詳細につきましては確定次第、ホームページやSNS等でお知らせいたします。